

The 1st ICSI (International Conference on Systematic Innovation) in Taiwan

参加報告

報告者 石田厚子（日立コンサルティング）

2010年1月27日

2010年1月23日から25日にかけて台湾で開催された、第1回 ICSI (International Conference on Systematic Innovation)に参加した。

本 conference は1年以上前から準備が進められ、TRIZのみならず、イノベーションに関わる多くの研究者を集めて、盛大に実施された。参加者は14ヶ国から150名以上であり、台湾の研究者と海外の研究者の交流、台湾の産業発展の実情を海外の研究者に知らしめた、という点で大きな成果があったと思われる。

以下に、本 conference の3日間の内容を報告する。

1. 全体像

開催期間：2010年1月23日（土）～1月25日（月）

開催場所：中華民国（台湾）新竹市*¹ 国立清華大学*²

- * 1 台北から新幹線（HSR）で30分のところにある、台湾のシリコンバレーと呼ばれる都市
- * 2 北京の清華大学と同じく1911年に北京で創立された清華学堂をルーツとする、工学系の有名大学

参加者：14ヶ国より150名以上

論文発表数：100件以上（英語論文70%、中国語論文30%）

2. 1月23日の内容

午前：

Ellen Domb氏（TRIZ Journal）のチュートリアル

‘How to USE TRIZ to solve real problem’

内容的には、TRIZを離れ、いかにしてinnovativeな思考をするか、を聴衆と掛け合いをしながら議論。例えば、「この部屋にどのような使えるエネルギーが存在するか、できるだけ多く挙げよ」とか、「タイタニック号の乗客、あるいはクルーだったら、生き延びるために手元にあるものをどう使うか」といったお題に対して相談して発表するなど。笑いも出る楽しいチュートリアルだった。

午後：

① オープニング・セレモニー

- ・ 国立清華大学学長の Chen 氏の挨拶
- ・ MATRIZ (国際 TRIZ 協会) の Mark Barkan 氏のスカイプを使ったスピーチ
世界各国で TRIZ が使われていることを紹介。
- ・ Conference チェアマンの D.Daniel Sheu 氏のスピーチ
本 conference が規模的にも内容的にも過去に例を見ないものであることを強調。

② Darrell Mann 氏のキーノート・スピーチ

‘A Periodic Table of Systematic Innovation’

TRIZ を越えたイノベーションのスキルについて、12 年間に及ぶ様々な方法論、ツールの研究から導かれた成果を報告。化学の周期律表になぞらえた「イノベーション要素の周期律表」について紹介した*³。また、UK の Altshuller ともいべき人物についての本を出すとの話も出た*⁴。

- * 3 説明時間が足りなくなり、後のパラレル・セッション内でも続きの説明があった。
- * 4 翌日の昼食時、Ellen Domb 氏に「日本にも市川亀久弥博士という Altshuller になぞらえられる人が居る」と話したところ、「各国にそのような人が居て、各々数百人の後継者がそれらの手法を守っている。ロシアの方法論(TRIZ)のようにこれだけ広まるのは珍しい。」との返事が返ってきた。

③ パラレルセッション

2 オーラルセッション (英語)

2 オーラルセッション (中国語)

1 パネル紹介セッション (英語)

1 パネル紹介セッション (中国語)

台湾の大学の研究者、学生が大半を占めている。英語でのプレゼンテーションの実践の場としての意味もあるようである。

3. 1月24日の内容

午前:

Jay Lee 氏 (米国 Cincinnati 大学と上海交通大学の教授) のチュートリアル

‘Dominant Innovative Tools for Product and Service Innovation’

Lee 氏は、トヨタ、日産、オムロンなどの日本企業始め世界各国の企業でコンサルティングをしている。日本の新幹線の開発にも参画したとのことである。

イノベーションを顧客の視点で捉えるべきであること、イノベーションは単に新しい製品の開発のためだけでなく、新たな付加価値を生むサービスの開発のためにも存在するべきであることを論じた。

その中で、縦軸に顧客のニーズ (可視から不可視へ)、横軸にマーケット (可視から不可

視へ)をとったイノベーションマトリクスが紹介された。現在の製品が目に見える顧客ニーズと目に見えるマーケットにあるとすれば、いわゆるブルーオーシャンは、目に見えない顧客ニーズと目に見えないマーケットに存在する。そこに生まれたアイデアをいかに可視化し実現するかが、具体例を持って示された。これも TRIZ を越えたイノベーションのメソッドと言えるだろう。

午後：

① Soho Cheng 氏 (Samsung Mobile Display) のスピーチ

‘TRIZ stories and experiences at Samsung’

Samsung グループでは TRIZ を 1999 年に Samsung Institute of Technology (SAIT) で導入して以来、5つの会社に展開してきた。2009年には、Samsung Mobile Display で TRIZ 普及のためのプロモーション・チームを立上げ、48 プロジェクトに TRIZ を適用、28人の TRIZ エキスパートを養成した。

このスピーチでは、Samsung グループでの TRIZ 導入成功のポイントを紹介している。例えば、「結果を評価すること」「トップダウンの展開」「適切なメンバーを選んで推進役にする」「大規模プロジェクトのタスクフォースにせよ」などである。

② Young-Ju Kan 氏 (Hyundai Mortars) のスピーチ

‘TRIZ Status, Experience, and Findings at Korean Industries’

Kan 氏は 2001 年から LS-Cable で TRIZ に取組み、LS-TRIZ Association を立ち上げた。2007 年からは、Hyundai Mortars で TRIZ の展開に取り組んでいる。どちらかと言うとボトムアップ・アプローチであり、製品開発と類似性を持ったシステムティックなアプローチである。Kan 氏は TRIZ Journal や TRIZ のコンソーシアムに多くの論文を出している。

③ パラレル・セッション

6 オーラルセッション (英語)

先の Jay Lee 氏や Denis Cavallucci 氏などがチェアを務める。石田は Jay Lee 氏のセッションで、TRIZ と市川亀久弥氏の等価変換理論の比較評価について発表した。Cavallucci 氏のセッションではロシアから参加した研究者たちが相互に通訳を務めながら議論していたのが印象的だった。テーマは S カーブのパラメータ化である。相互作用を狙って各セッションで TRIZ と非 TRIZ の発表が混在していた。

4. 1月25日の内容

午前：

① Ellen Domb 氏のキーノート・スピーチ

‘Global Success TRIZ / Systematic Innovation’

当初、Sergei Ikovenko 氏のスピーチが予定されていたが、急病のため Domb 氏が登板することになった*⁵。世界各国の多くの企業で TRIZ / Systematic Innovation が展開されていることを、企業、コンサルタント、適用分野、学会、地域、派生した技法などの観点から紹介した。

* 5 Domb 氏はチュートリアル、セッションのチェア、自らの発表、そしてキーノート・スピーチと大活躍であった。

② パラレル・セッション

5セッション（英語）が行われた。Denis Cavallucci 氏などが発表。

③ クロージング

次の開催は、上海である。

5. その他のトピックス

・前日の 22 日には、台北の観光、24 日には宴会にて台湾の民族音楽の鑑賞、25 日の終了後には台湾企業の見学会など、台湾をアピールするとともに海外からの参加者に満足してもらう配慮がなされていた。

・招待されてチュートリアル、キーノート・スピーチ、事例スピーチをした人たちには民芸品の額に記念の集合写真を入れたものが贈られ、Daniel Sheu 教授との写真撮影があった。

以上